

「セカンドライフの住まい」に関するアンケート調査報告と分析

鈴木儀雄* 小宮容一**

A study & report on enquete of " house of second-life"
SUZUKI Yoshio KOMIA Yoichi

1. はじめに

本報告と考察は、(社)日本インテリアデザイナー協会関西事業支部(研究委員会セカンドライフデザインプロジェクト:委員長鈴木儀雄)が行ったアンケート調査「セカンドライフの住まい」の回答資料に基づき、その一部分の報告と考察である。

調査の目的: 高齢社会を迎え、高齢者が快適なセカンドライフ(定年退職後の生活等)を過ごせる「住まい」を課題として、高齢者及びこれから高齢を迎える方を対象に、セカンドライフの暮らし方をどのように考えているかの把握。

調査期間: 2007年10月~2008年3月

調査方法: ペーパー方式とインターネット方式併用

調査対象: 近畿周辺。20代以上の男女

集計結果: 回集383枚。性別男子59.2%女子40.8%。

年齢20代3.4%、30代11.8%、40代23.3%、50代35.6%、60代20.9%、70代2.4%、無回答2.6%。

職業・会社員38.5%、自営19.6%、無職13.1%、その他8.9%、役員8.4%、パート8.1%、公務員1.6%、無回答1.8%。

2. 集計と分析

集計はセカンドライフに関心度の高さと回集数の多い40代50代60代の年齢層とした。

2-1. セカンドライフの住まいの確保方法

設問「どこに住みたいですか/現在の住まいを…リフォームする、建て替る、現状のまま、住み替る」の4択とした。結果は下図1となった。

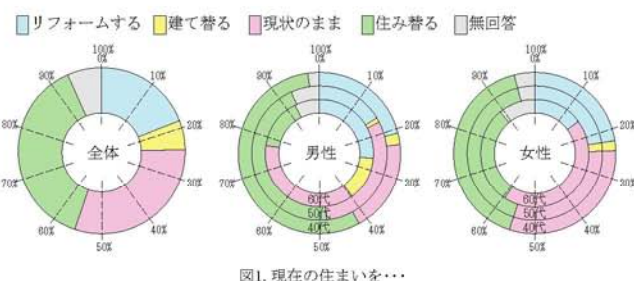


図1. 現在の住まいを…

全体では、「現状のまま」と「住み替る」が上位にあり、次に「リフォーム」「建て替る」とつづく。年齢を見ると60代では、「現状のまま」「リフォーム」「建て替る」となり、現状派で住み替え・移動の意欲が減少する。「建て替る」は、仮住まい・仮倉庫や設計・施工と経済的・労力的が負担となり、避けていると考えられる。

2-2. 住み替えの場所

住み替えの場所を「都会、郊外、田舎、海外、その他」の5択で聞いた。結果は下図2となった。

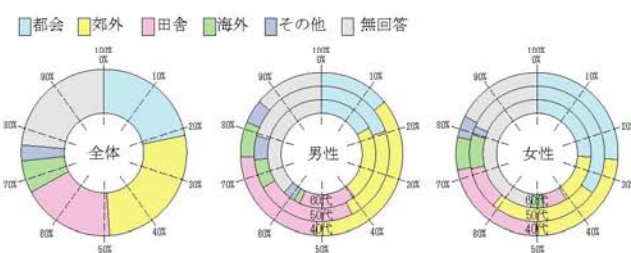


図2. 住み替え場所

全体では、郊外22.4%、都会21.9%、田舎18.4%と大きな差は出なかった。性別では女性の「都会」希望が男性のそれを大きく上回っている。生活の現実感(買物・医療・娯楽等)からと考えられる。年齢・性別で、40代男性の「郊外」希望が37.2%と突出して高い。これは日々の労働の場が都会であることの強い反動と思われる。

2-3. 住まいのタイプ

戸建住宅について、平屋、2階建、3階建、2世帯住宅の4択で聞いた。結果は図3である。全体は、「平屋」39.0%で「2階建」25.7%を上回っている。年齢別では、40代は「2階建」が「平屋」を上回っているがこれは子供も養育期が重なったの回答と思われる。セカンドライフの実感世代の50代60代の回答を見れば「セカンドライフの住まい」の「平屋」希望が圧倒的であると分かる。

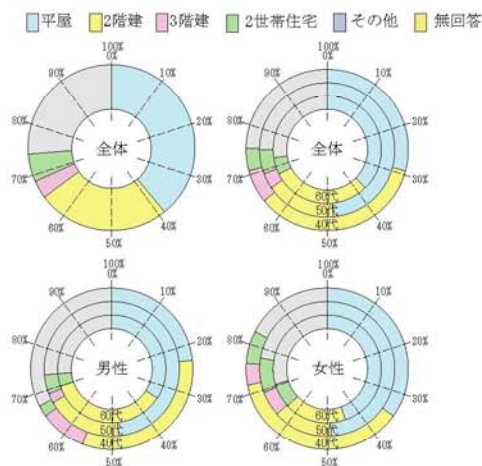


図3. 戸建住宅タイプ

2-4. リビング

セカンドライフで充実させたい部屋として、部屋毎に内容を聞いた。まずリビングについて、L独立タイプ、LDタイプ、LDKタイプ、その他の4択とした。結果は図4である。

LDKタイプ41.9%、L独立タイプ21.0%、LDタイプ13.7%で、LDKタイプの希望が多い。これは、機能的利便性、家族等の交流、空間の有効利用性等の配慮から考えられる。



図4. リビング

2-5. ダイニング

次にダイニングについて、D独立タイプ、DKタイプ、その他を聞いた。結果は図5である。年齢・世代共無回答が多くダイニングに関心度・理解度が低いと思われる。全体はDKタイプの希望がD独立タイプを抑えて1位である。しかし、女性40代ではD独立タイプが逆転している。これは女性40代にとってダイニングの重要性・占有性を意味しているものと思われる。

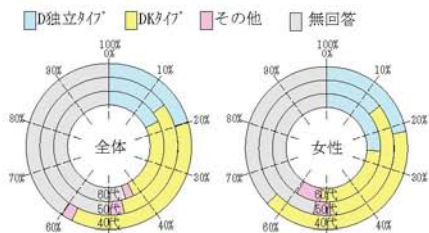


図5. ダイニング

2-6. キッチン

キッチンは、広くしたい、コンパクトでよい、その他を聞いた。結果は図6である。全体では、コンパクトでよい38.1%が、広くしたい31.4%をわずかに上回った。しかし、女性60代のみ、広くしたい40.7%が、コンパクトでよい29.6%を大きく上回った。

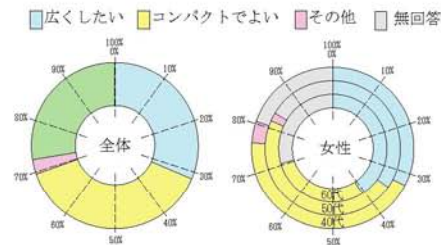


図6. キッチン

2-7. 寝室

寝室は、ベッドと和室の希望を聞いた。全体でベッドが和室の約2倍の希望数であった。性別では女性のベッド希望が、男性の約1.8倍であった。同時に夫婦同室、夫婦別室の希望を聞いた。性別・年齢の特徴は、男性40代が圧倒的にベッドを希望、50代60代ではほぼ同数、女性40代が同室希望15.2%で別室10.9%をわずかに上回った。逆に50代60代では別室が同室を上回っている。図7である。

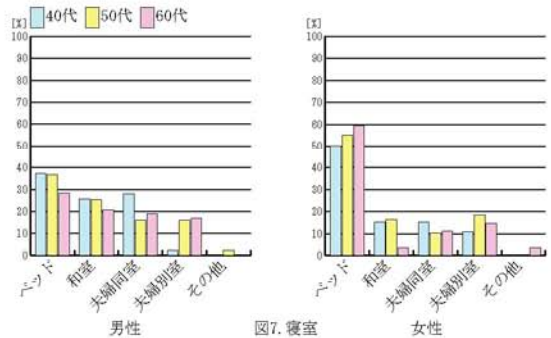


図7. 寝室

2-8. 欲しい部屋

趣味の部屋、書斎、仕事部屋、ゲストルーム、その他の5択で聞いた。各世代共趣味の部屋が1位。男性50代、60代では書斎が小差で2位。特徴的なのは、50代女性の書斎希望が、60代女性のゲストルーム希望が多いことである。これは、50代女性が子育て一段落の時期となり時間の余裕と考えられる。60代女性では子供が結婚など家を出て、里帰りとか友人との談話を求めるところからと考えられる。図8である。

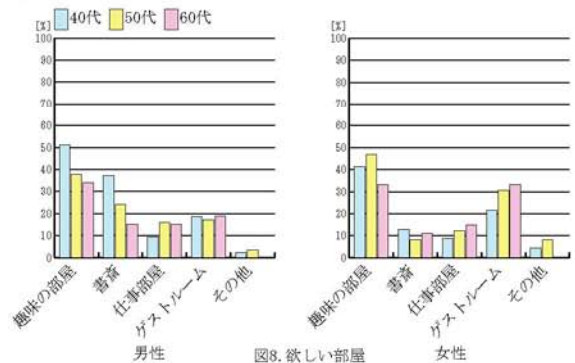


図8. 欲しい部屋

3. まとめ

住宅については「現状のまま」が1位で次が「住み替え」となった。住み替えの場所は郊外、都会、田舎は大きな差を得なかった。戸建住宅のタイプはセカンドライフとして「平屋」が支持された。

部屋については、リビングはLDKが支持された。ダイニングでは明確なタイプの希望を、キッチンには広さに対する明確な希望を見出せなかった。寝室はベッドが支持され、夫婦同室・別室は女子50代60代で別室希望が勝った。欲しい部屋は、趣味の部屋が支持され、セカンドライフのライフスタイルが示された。